

第64回テーマ:

六甲山の履歴書
あしあと
～刻まれた足跡～



造成中のドライブウェイを走るオートバイ
(安井光三撮影、大正13年頃)

講演内容

- 明治期の外国人の関心（自然・スポーツ）と日本人の関心（水・温泉）
- 大正期の日本人の関心（登山）
- 昭和期のスポーツ熱と電鉄会社の開発熱
- 戦後のモータリゼーションの足跡

実施日：平成20年
7月19日（土）
午後1時～3時45分
場所：六甲山自然保護センター



講師：安井 裕二郎さん
プロフィール

1956年生まれ52歳、芦屋市出身。慶應義塾大学商学部卒業後大阪国税局に勤務。2006年ジャパンメモリー(株)を設立し独立。祖父が大正元年(1912)に元町で「安井写真機店」創業、その残された写真を研究し、日本の近代史に関心を抱く。

梅雨明けの六甲山は夏真っ盛り

梅雨明けの六甲山は好天に恵まれました。表六甲ドライブウェイ沿いは、フサフジウツギの紫やネムノキの白とピンクの花が鮮やかでした。自然保護センターの温度計は29℃まで急上昇し、夏真っ盛りです。今回のセミナーは、新聞や図書館でのチラシを見て初参加された方など11名を含む36名の参加者で大変にぎわいました。

神戸の近代史を探究される安井さん

今回は、神戸の近代史に詳しいジャパンメモリー(株)代表取締役の安井さんにお話をお聞きしました。祖父の遺業の跡を引き継いで、写真や絵はがきを収集し、本年1月には、日本の近代史の研究結果をまとめた著書『識るカー 神戸元町通で読む70章』を出版されました。また、地域活性化の企画プロデュースするお世話もされています。



著書を手にとる安井さん

講演のために、明治時代から現在までの六甲山の移り変わりを年表にまとめて配布されました。

写真で紐解いた六甲山の足跡

六甲山系として、西から諏訪山、再度山、摩耶山、六甲山ととらえています。六甲山系の近代史は5期に分けられるとのこと。西の山麓の諏訪山にはかつて温泉があり、賑わっていました。公園も整備されて、六甲山麓の開発は諏訪山が発端になっています。

その後、急激な都市化などにより、東にある六甲山が注目されるようになりました。阪急、阪神、神鉄の各電鉄会社が競うように開発を進めました。道路やケーブル、ロープウェイの整備も行われ、交通の便が整え

られました。六甲山ホテルなどの宿泊施設も建設され、昭和9年から12年が六甲山の戦前の最盛期でした。

これらの5期にわたる六甲山系の開発の節目を中心に、写真や絵葉書などを基にわかりやすく解説していただきました。

六甲山の近現代史が集まった

今回の市民セミナーを含めると、六甲山の近現代史をテーマにした9編の講演報告が集まりました。

(第7回、11回、31回、43回、46回、47回、48回、58回参照) 名所図会、外国人との関わり、六甲山開発史、六甲・摩耶山の活性化についてなど、それぞれの切り口は異なりますが、六甲山にちなむ歴史と文化の深さと広がり蓄積できたことが実感できます。

これらの知的財産を整理し統合することによって、六甲山の魅力再発見の近現代史を描くことができそうだと期待をふくらませました。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

参加の感想 安岡 愛子さん

近代から現代までの六甲山の歴史を昔の写真や絵はがきをたくさん見せて頂きながら説明を受け、とても面白かったです。

再認識したことは下界の政治経済状況が如実に六甲山の自然や施設に影響してきた(している)ということでした。誰もが手軽に訪ねられる自然豊かなゴミのない活気ある六甲山にしていく、そんな歴史を作り継承していくために何をしたら良いか、光あふれる美しい緑を見つ下山しました。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

コベルコ環境保全基金、灘区役所

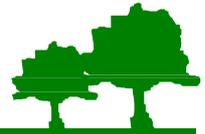
公益信託自然保護ボランティアファンド、

公益信託TaKaRaハーモニストファンド



第64回テーマ：六甲山の履歴書～刻まれた足跡～

あしあと



第64回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:10
2. 講演：13:10～14:30
3. 休憩：14:30～14:40
4. 質疑応答：14:40～15:45

講演

- 明治期の外国人の関心（自然・スポーツ）と日本人の関心（水・温泉）
- 大正期の日本人の関心（登山）
- 昭和期のスポーツ熱と電鉄会社の開発熱
- 戦後のモータリゼーションの足跡



絵はがき・写真のアルバム

講演の挨拶（安井裕二郎さん）

今年1月の市民セミナーに参加しました。去年の12月に、『識る力』を出版したので、本のことや研究している近代史のことなどをお話しようと思います。

祖父が大正元年、元町にカメラ店を開いたことがきっかけで、写真に興味を持ちました。今回の発表では、活字と同じ割合で画像を見ていただいて、理解してもらえればと思います。



安井裕二郎さん

第1期	幕末～明治36年 ～1903年	外国人の自然への関心、日本人の温泉・水・氷への関心
第2期	明治37年～大正12年 1904～1923年	日露戦争を境に急激な都市化・重工業化の津波、大阪の住環境の悪化で六甲山麓に注目
第3期	大正13年～昭和20年 1924～1945年	スポーツブームと電鉄会社の開発競争時代
第4期	昭和20年～平成5年 1945～1993年	モータリゼーションによる神戸市の六甲山観光地化
第5期	平成6年～ 1994年～	パブルの崩壊・阪神淡路大震災以降の六甲山観光

【六甲山の履歴書・年表】

講演内容

1. 諏訪山の賑わいから始まった（第1～2期）

■「神戸港の裏山」に温泉があった

明治時代は多くの方が六甲山よりも、六甲山系のひとつ、諏訪山に関心を持っていた。明治6年には、諏訪山を訪れたイギリス人が鉱泉を発見し、実業家だった前田又吉が諏訪山温泉を開発した。

諏訪山温泉には、板垣退助や伊藤博文などの要人も訪れ、賑わった。また、フランス人のヤンセンが金星観察した場所は金星台と命名された。



諏訪山温泉

■水と六甲山

西南戦争（1877年）の頃、コレラに感染した兵隊達が神戸に戻ってきて、神戸でコレラが大流行した。水が良くないとコレラに感染してしまうという恐れから、水に対する需要が高まった。六甲山に張った氷を街中で売る業者も出てき

た。その後、衛生対策などで布引ダムを着工、完成させ、神戸の水道事業が始まった。六甲の水はおいしいと評判になり、神戸を訪れた外国船も運んでいくようになった。水がおいしく、環境が良い場所として山麓の住吉村に大阪の富豪たちが多く移り住んだ。

■六甲山の開山

明治28年グルームがかごに乗って、六甲山に登った。私費で六甲山に道を引き、山荘を2棟建てた。同年に六甲山は開山した。行政は、六甲山系の砂防植林も開始したが、自然保護の視点ではなく、水害を防ぐことが主な理由だった。日露戦争後には、諏訪山から東へ、苦楽園・宝塚から西へと関心が向かい始め、六甲山が注目されるようになった。



グルームの六甲登山

この頃から、多くの登山団体が設立された。精神・体を鍛えるための登山という位置付けだった。

2. 六甲山最盛期（第3期）

■電鉄会社の山上開発

大正14年に摩耶ケーブルが開通し、阪急が六甲山頂に「阪急食堂」を開発するなど、六甲山への進出を始めた。阪神も負けじと、六甲山の唐櫃村の土地を75万坪取得し、本格的な開発に乗り出した。現在の神鉄も開通し、阪急・阪神・神鉄の開発競争が激化した。

昭和4年に六甲山ホテル、摩耶ホテル、六甲山オリエンタルホテルなどの宿泊施設も電鉄会社が開業した。昭和9年の鉄道省線六甲道駅開業後、現在のJRも開発競争に関わった。昭和9年に六甲高山植物園、昭和12年に六甲山カンツリーハウスなどの観光施設ができた。



六甲山ホテル

この頃が六甲山の最盛期だといえる。

■レジャースポーツの多様化

子どもたちが六甲山頂に遠足で来るようになった。阪急がワンダーフォーゲル、阪神がハイキングという言葉を用い、六甲山のPRをしていた。スケート、ゴルフなど他のスポーツを

行える場所も増えた。六甲山は、精神修行としての登山を行う場所とともに、レジャースポーツを楽しむところに変化した。このころには、登山靴ではなく、普通の運動靴で山に登る時代になった。

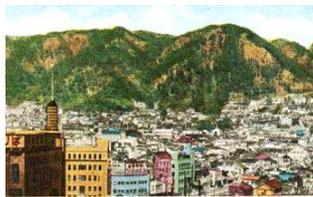
■水害の影響を受ける

昭和13年7月に、阪神大水害が起こった。土砂崩れが発生し、六甲ケーブルは運休せざるをえなくなった。また、ドライブウェイも打撃を受けた。大水害の復興事業として、造林事業を始めた。

3. 山の大衆化（第4～5期）

■戦争の爪跡

7年後の神戸大空襲では諏訪山温泉が焼失してしまった。終戦10日目には、六甲ケーブルが再開したが、日本がアメリカの占領下に置かれ、昭和21年に、神戸ゴルフ倶楽部が米軍に接収された。戦前の六甲山レジャーパーク時代は、10年ほどで終焉を迎えた。六甲山は木が少なく、はげた山肌が目立つ山になっていた。



山肌がはげた六甲山

■六甲山の観光地化

戦前は、六甲山へ向かうのに乗り合いバスを使っていたが、マイカー族が増えてきた。昭和31年以降、表六甲ドライブウェイ、再度山有料道路、芦有道路、六甲山トンネルなど六甲山に向かうための道路もさらに整備された。

昭和31年に、六甲山が瀬戸内海国立公園に編入された。同じ年、六甲山に新たな観光名所が開発された。回る十国展望台と呼ばれる回転展望台である。その後も、子どもから大人まで楽しめる観光施設が作られた。

バブル期以降も、阪神が経営するオルゴール館の開業など六甲山の観光開発は進んだ。



回る十国展望台

■震災後の沈滞

六甲山開山100周年にあたる平成7年、阪神淡路大震災が起きた。震災以降、六甲山にある企業の保養所が徐々に閉鎖された。戦後の六甲山名物と言われていた回る十国展望台も平成15年に45年間の歴史に幕を閉じた。阪神が経営していた六甲山オリエンタルホテルの閉鎖など、六甲山に関する暗い話題が目立つようになった。

質疑応答

諏訪山温泉はどのあたりにあったのか？

現在の兵庫県庁の裏、山手女子大学の方にある。近くまでいけば諏訪山神社がある。現在まで温泉が残っていないのは戦争があつて、焼けてしまったから。



諏訪山温泉「西常盤」

まとめ(安井さん)

平成19年に、六甲山ホテル、六甲ケーブル山上駅、神戸ゴルフ倶楽部などが国土交通省の近代産業遺産に指定されました。産業遺産への指定は「これからは、六甲山の産業遺産を活用」という意味だと思っています。

第1期から5期までの歴史を紹介しましたが、第6期は、六甲山の歴史を活用した活性化が始まる時期だと考え、これからの期待をしています。

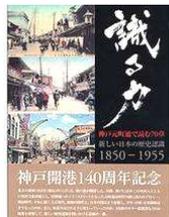
事務局より

六甲山の歴史については、グループ以前、グループ時代、グループ以降という3分割の必要を唱える方がいました。今回は安井さんから5期に分けてとらえることを提起していただきました。

いずれにせよ、六甲山開発の動向が大きく影響していると思われます。改めて六甲山の歴史の移り変わりに注目してみたいものです。六甲山の自然環境とともに、歴史・文化の魅力を再発見して、私たちが共有できる大きな環境を今後に生かしていきたいと思います。

◆参考・配布資料など

- ・スライド「六甲山の履歴書」
- ・レジュメ「六甲山の履歴書」
- ・『識る力ー神戸元町通で読む70章』
(日本の近代を語る会編、
ジャパンメモリー社発行)



◆参加者の声～アンケートより～

- ・一般の本では読めない話を聞いて、有意義だった。
- ・年表は神戸の歴史を振り返って勉強する時の参考になる。

◆参加者：36名（50音順・敬称略）

浅井 審一	上田 均	大垣 廣司	岡谷 恒雄
尾崎 尚子	北野 勇	國里 吉秀	久保 広昭
香西 直樹	小坂喜代美	小坂 忠弘	柴田 正生
島村美津子	高橋 圭子	高橋 敬三	竹ヶ原泰三
辻 保	堂馬 英二	堂馬 佑太	西井 豊
橋本いくゑ	長谷川友彦	林 和俊	平井 庄一
藤井宏一郎	松井 光利	南 正雄	村上 定広
森 康博	八木 浄	安井裕二郎	安岡 愛子
山下 昌人	横井 玉雄	横山 千秋	米村 邦稔

ジャパンメモリー株式会社 代表取締役
安井 裕二郎 やすい ゆうじろう
〒559-0092 芦屋市大原町 2-6-702
電話：0797-35-2888 FAX：0797-35-2888
E-mail：japanmemory1850@yahoo.co.jp